

# 奈良県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

① 求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
中学校	目標値	40%	45%	50%	50%
	達成値	31%	36.7%		
高等学校	目標値	60%	63%	65%	70%
	達成値	58.1%	59.5%		

[現状と課題分析]

- 中学校については、令和元年度英語教育実施状況調査の結果では、CEFR B2 レベル以上の力を有する英語担当教員の割合は、これまでの本事業で実施した英語指導パワーアップ講座において、受講者の英語コミュニケーション能力を高める研修を行ってきた結果、その割合は着実に上昇しているが、全国平均（R1年度：38.1%）には達していない。業務の多忙感から外部試験等の受験に至っていないことが考えられる。研修を従来の集合型研修だけでなく、Meet を活用したオンライン型の研修を併用することで参加しやすい研修の在り方を工夫し、英語力向上の意欲を高め、外部検定試験の受験につなげていく必要がある。
- 高等学校については、これまでの英語教育推進リーダー中央研修の伝達講習やパワーアップ講座等の成果により、この5年間で着実に向上が見られる（H27年度：45.4%→R1年度：59.5%）。しかしながら、まだ4割の教員が目標に達していない。外部試験を受検した経験の割合も全国平均に比べると低く、自身の英語力を向上させたいという意欲につながる機会に触れていないことが原因の一つと考えられることから、CEFR B2 レベル以上の英語力に基づいた英語運用能力の向上のための研修の機会を提供する必要がある。

② 授業における、英語担当教員の英語使用状況

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
中学校	目標値	60%	70%	75%	80%
	達成値	43.5%	57.2%		
高等学校	目標値	70%	70%	75%	75%
	達成値	47.5%	62.9%		

[現状と課題分析]

- 中学校については、市町村教育委員会指導事務担当者会において本県の英語教育の課題と目標について周知し、またあらゆる研修会等の機会での授業改善について啓発した成果として、大きく割合が上昇しているが、全国平均（R1年度：76.9%）には達していない。従来の講義形式の授業スタイルから脱却できていない教員がいると思われる。引き続き、市町村教育委員会指導事務担当者の理解を深める取組を継続するとともに、パワーアップ講座等の研修を通して、授業改善を進めていく必要がある。
- 高等学校については、英語科教員を対象とした集会や研究会等を通して啓発に努めた結果、この5年間で大幅な向上が見られた（【普通科】H27：32.7%→R1：63.6%）。しかしながら、要請訪問や研究会等における研究授業を見ると、使用する英語について、必ずしも、生徒の実態や教育活動の内容に応じて工夫して使用されているわけではなく、教員自身の英語力の向上及び英語運用能力を引き続き高める必要がある。

## ③ 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合（中学校第3学年、高等学校第3学年）

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
中学校	目標値	42%	45%	48%	50%
	達成値	40.4%	42.6%		
高等学校	目標値	45%	47%	50%	55%
	達成値	32.1%	47.2%		

## [現状と課題分析]

- ・中学校については、少しずつ上昇しているものの、第2期教育振興基本計画で掲げられた50%という成果指標にはまだ到達できていない。外部検定試験を受験したことのある生徒の割合は23.8%と全国平均（R1年度：44.8%）より低い。客観的に自身の英語力を知る機会がなく、教員も生徒の英語力を客観的に測ることができていないと思われる。生徒の英語による言語活動を中心とした4技能のバランスのとれた授業が行われることを推進し、またパフォーマンステストの在り方を工夫し、生徒の英語力を測る機会の確保を進めていく必要がある。
- ・高等学校については、直前の4年間は向上が見られなかったが、令和元年度に大幅に改善した（H27年度：30.5%、H30年度：32.1%→R1年度：47.2%）。令和元年度から、各校に目標値を年度当初に設定させ、PDCAサイクルを意識させたことが成果につながったと考えられる。しかしながら、第2期教育振興基本計画で掲げられた50%という成果指標には達しておらず、引き続き、各学校で生徒の英語による言語活動を中心とした4技能のバランスのとれた授業が行われることを推進し、生徒の英語力を向上させる必要がある。

## ④ 「CAN-DO リスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
中学校	設定	目標値	70%	90%	100%	100%
		達成値	56.3%	62.1%		
	公表	目標値	35%	40%	50%	80%
		達成値	11.7%	13.6%		
	把握	目標値	50%	80%	100%	100%
		達成値	20.4%	22.3%		
高等学校	設定	目標値	100%	100%	100%	100%
		達成値	100%	100%		
	公表	目標値	30%	40%	50%	60%
		達成値	20%	38.2%		
	把握	目標値	50%	60%	70%	80%
		達成値	45.5%	61.8%		

## [現状と課題分析]

- ・中学校については、令和元年度の整備状況は、公表・達成状況の把握についてはそれぞれ13.6%（H30年度：11.7%）、22.3%（H30年度：20.4%）であった。「CAN-DO リスト」の形式で設定した学習到達目標を設定した学校の割合が増加しているが、依然として低い数値を示している。業務の多忙感が強くCAN-DO リストを整備する余裕がない、CAN-DO リストを整備したもののどのように活用すればよいか分からない等の教員の声があることから、全県的に取組が進められるよう、CAN-DO リストの参考様式を示す、活用の方法を研究する等の取組を通して全校で整備できるよう進める必要がある。
- ・高等学校では、令和元年度の整備状況は100%（H30年度：100%）、公表・達成状況の把握については、それぞれ38.2%（H30年度：20.0%）、61.8%（H30年度：45.5%）であった。当該年度

の「CAN-DO リスト」の提出を求めていることもあり、全学科で「CAN-DO リスト」が設定されている。少しずつではあるが、「CAN-DO リスト」の形式で設定した学習到達目標を活用する学校の割合が増えている。ただ、公表・達成状況の把握については、着実に増加しているものの、十分とは言えない。観点別学習状況の評価等、指導と評価の一体化についての適切な理解が必要だと考える。

⑤ 「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
中学校	スピーキング	目標値	3回	3.1回	3.2回	3.3回
		達成値	2.27回	2.87回		
	ライティング	目標値	1.8回	1.9回	2回	2.1回
		達成値	1.86回	1.91回		
高等学校	スピーキング	目標値	1.5回	1.6回	1.7回	1.8回
		CE I	1.7回	1.6回		
	ライティング	目標値	0.5回	0.75回	1回	1.2回
		CE I	1.3回	1.2回		

[現状と課題分析]

- ・中学校については、実施している割合は上昇しているが全国平均（R1年度：86.1%）にはまだ達していない。パフォーマンステストの在り方についての教員の理解が深まっていないことが考えられる。実施の回数の向上だけでなく、新学習指導要領の趣旨を踏まえたパフォーマンステストの在り方について理解が深まるよう、研修等で『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料等を活用し、指導と評価の一体化を更に進めていく必要がある。
- ・高等学校においては、パフォーマンステストを実施した学科数の割合は、コミュニケーション英語Ⅰ84.6%（H30年度：82.0%）、コミュニケーション英語Ⅱ76.7%（H30年度：68.2%）、コミュニケーション英語Ⅲ68.8%（H30年度：56.3%）、英語表現Ⅰ90.9%（H30年度：73.3%）、英語表現Ⅱ93.3%（H30年度：89.7%）であった。すべての科目において、前年度よりも増加している。言語活動が中心となった授業への改善が進むことで、パフォーマンステストの重要性を教員・生徒ともに認識すると考えられることから、100%の実施に向けて、授業改善を推し進めるとともに、授業と評価の一体化が実現するよう、研修等により更に啓発していく。

⑥ 校種間連携

小学校と連携している中学校の割合

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
中学校	目標値				90%
	達成値	69.9%	73.8%		

- ・中学校については、小中連携を行っている割合は上昇しているが、全国平均（R1年度：82.0%）には届いていない。連携が必要であるという認識はあっても業務の多忙感から連携するための学校間の調整ができていないことが考えられる。単に新しい取組を増やすという考えではなく、各中学校区が必要とする持続可能な小中連携の在り方を研究し、その成果を周知する必要がある。また、可能な限り近隣の高等学校との連携を授業参観や情報交換を通して進めていく。

⑦ 英語専科教員の指導力向上

- ・当県には、加配による英語専科教員が25名配置されており、そのほとんどが複数校を担当して

いる。また、中学校籍の英語科担当教員が専科教員として小学校で授業している場合もある。令和元年度から小学校英語専科教員連絡協議会を開催しており、小学校学習指導要領の趣旨の理解を深め、質の高い授業実践が求められる専科教員の指導力向上のための研修や、専科教員同士の情報交換の場を今後も継続して設定していくことが必要である。

**⑧ 小学校における英語教育の充実に向けた教員新規採用  
新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合**

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	目標値	10%	10%	20%	30%
	達成値	12.5%			

- ・教員採用試験において、一定の英語力を有する者の積極的な採用を実施している。教員採用担当課とも連携を図りながら、一定の英語力を有する者の採用を進めていき、令和7年度には新規採用の50%を目指していく。

(2) (1) の目標を達成するための取組 (施策の全体像と具体的な計画)

**ア 奈良県英語教育改善連携専門部会**

奈良県教育委員会(小・中・高等学校それぞれの校種担当指導主事)及び奈良教育大学が連携して英語教育改善に向けた専門部会を設置。小・中・高等学校等のそれぞれの校種における課題や取組を共有し、連携を図るとともに、「英語指導パワーアップ講座」等により英語教育担当教員の資質を向上させ、奈良県英語教育を改善させるための方針、施策を策定し実施する。部会は年3回程度開催予定。

○奈良県英語教育改善連携専門部会構成メンバー

- ・奈良県教育委員会事務局学校教育課指導主事(義務教育担当、高校教育担当)
- ・奈良県立教育研究所指導主事
- ・奈良教育大学英語教育担当教員(小学校教育担当、中学校教育担当、高校教育担当)

**イ 英語指導パワーアップ講座**

**1 趣 旨** : 小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実させるため、奈良教育大学等と連携し、英語教育担当教員に対する研修を強化し、教員の英語力・英語指導力等の資質向上を図る。外部検定試験による英語力の検証及び教員・生徒対象アンケートや生徒の外部検定試験による授業改善の検証等により事業成果を測定する。

**2 名 称** : 英語指導パワーアップ講座

**3 期 間** : 令和3年6月～令和4年3月(研修実施日数4日間程度)

**4 対 象** :

- 小学校 : 各市町村教育委員会が推薦し、今後各市町村の英語教育の中核教員となる者  
・・・20名程度
- 中学校 : 各市町村教育委員会が推薦し、今後各市町村の英語教育の中核教員となる者  
・・・20名程度
- 高等学校 : 基本的には、CEFR B2 レベル以上を未取得の英語担当教員  
・・・15名程度

○ALT：県内ALT全員（毎年受講）

※各校種とも、上記対象者以外も、各回の研修会に参加できる体制をつくる。

※英語指導パワーアップ講座以外にも、研修協力校における研修等の機会を設け、異校種も含め、幅広い参加が可能となる体制をつくる。

## 5 目 標：

○小 学 校：外国語活動・外国語科の指導力及び指導に必要な英語コミュニケーション能力（英検2級程度）の育成。

○中 学 校：英語で授業を行うための指導力及び英語力（英検準1級程度以上）の育成。

○高等学校：高度な言語活動の指導力及び英語力（英検準1級程度以上）の育成。

6 研修内容：年間4日間程度（オンラインでの研修を含む）の全体の研修計画を基に、各参加者が、自主研修計画（個人の目標と行動指標・成果指標の設定含む）を作成し、英語力、指導力の向上を目指して取り組む。

○小 学 校：先進的な取組を行っている英語教員、奈良教育大学教員等が講師となり、クラスルームイングリッシュやALTとの打合せに必要な表現等、外国語活動指導を行うためのコミュニケーション能力育成に係る研修、また、小中連携やCAN-DO形式による学習到達目標の設定についての研修を実施。参加者は各所属校において研究授業を実施。研修内容が実践につながっているかを指導主事や大学教員が指導・助言し、指導力の向上を図る。

○中 学 校：先進的な取組を行っている英語教員、奈良教育大学教員等が講師となり、英語で授業を行うための指導法、指導に必要なコミュニケーション能力の育成に係る研修、また、小中連携やCAN-DO形式による学習到達目標の設定、指導と評価の一体化のための学習評価についての研修を実施。参加者は各所属校において研究授業を実施し、研修内容が実践につながっているかを指導主事や大学教員が指導・助言し、指導力の向上を図る。

○高等学校：教員研修に実績のある民間企業に委託し、教員自身の英語力及び英語の授業における高度な言語活動の指導力や指導に必要なコミュニケーション能力の育成に係る研修を実施。参加者は各所属校において研究授業を実施し、成果の普及に努める。

○A L T：外国語指導助手の指導力等向上研修を夏及び秋に各2日、計4日にわたり実施。講演「日本人教員との協働について」、講義・ワークショップ「再任用ALTとしての心構え」、ALTと教員による実践発表・ワークショップ「ALTとのよりよい協力関係の構築」「ALTの効果的な活用」「ティームティーチングにおける効果的な教材の活用」「生徒の言語活動を促進させる効果的な活動例」、大学教員等による講義を行う。

## 7 検証方法：

○小 学 校：外部検定試験（英検2級を標準とする、他TOEFL、TOEIC等）により教員の英語力、教員・児童対象アンケート（年2回実施）及び英語教育実施状況調査により教員の指導力の向上を検証。受講者対象アンケート等も併せ、奈良県英語教育改善連携専門部会において成果と課題を検証する。

○中 学 校：外部検定試験（英検準1級以上、複数年受講の場合は1級合格を目指す、他TOEFL、TOEIC等）により教員の英語力、教員・生徒対象アンケート、英語教育実施状況調査により教員・生徒の英語力、教員の指導力の向上を検証。受講者対象アンケート等も併せ、奈良県英語教育改善連携専門部会において成果と課題を検証する。

○高等学校：教員・生徒対象アンケート、英語教育実施状況調査により教員・生徒の英語力、教員の指導力の向上を検証。受講者対象アンケート等も併せ、奈良県英語教育改善連

携専門部会において成果と課題を検証する。

## ウ その他

### <小学校・中学校>

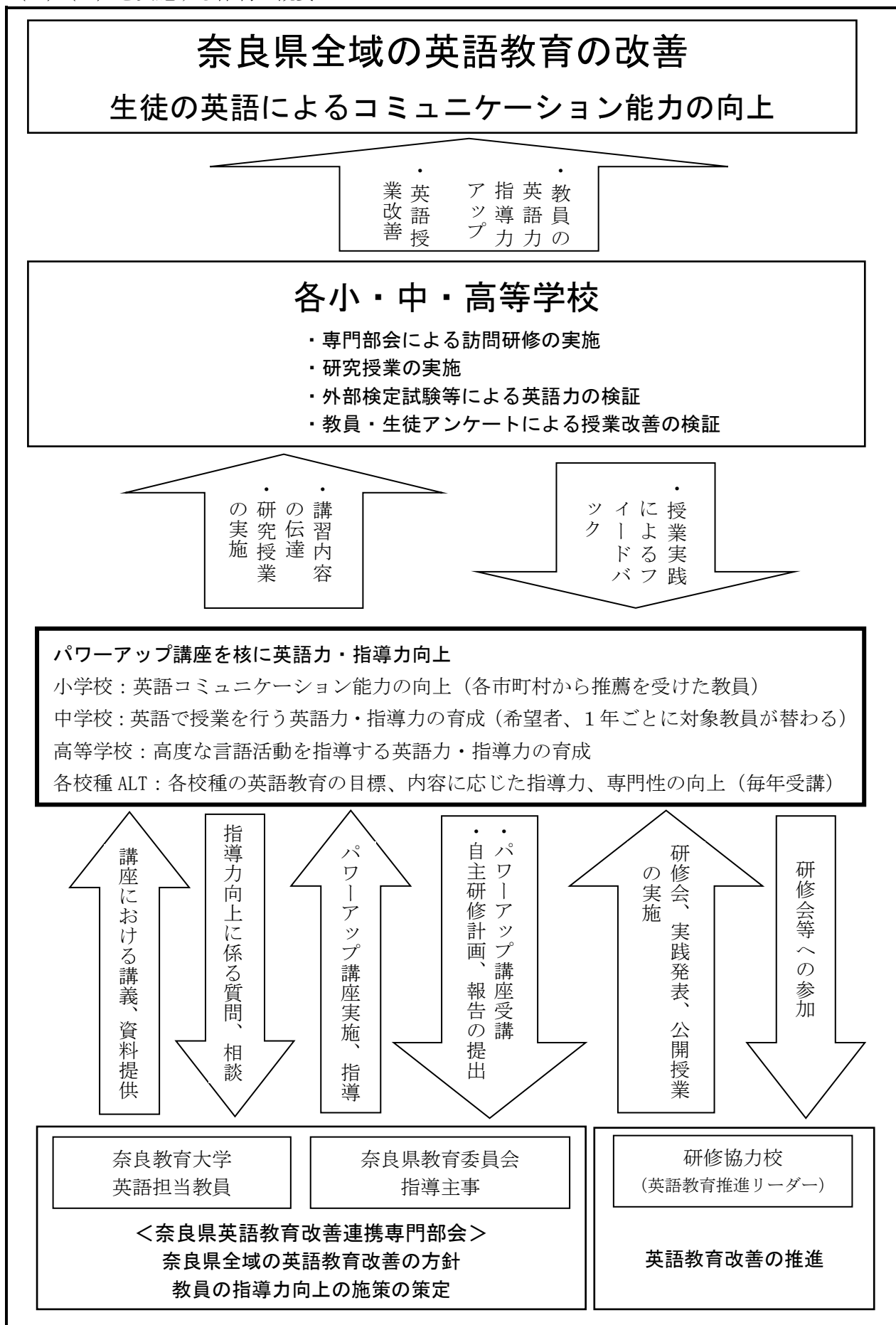
- ・小中連携を推進するための研究指定校区の設定  
小中連携の進んでいない、または小中連携をより深めたい中学校区を指定し、持続可能な小中連携モデルの開発、または学びの連続性を意識した指導をするための小・中5（7）年間を見通した学習到達目標（CAN-DO リスト）の設定とその活用について研究し、その成果を広く普及する。
- ・英語専科教員連絡協議会及び研修会の開催  
英語専科教員としての指導の在り方等について協議し、英語専科教員としての資質向上を図るため、令和元年度から年1回開催している英語専科教員連絡協議会を引き続き開催するとともに、奈良教育大学と連携し、専科教員を対象とした指導力向上のための研修会を開催する。また、外部検定試験の受験を奨励する。
- ・小学校教員新規採用に係る取組  
一定の英語力を有する小学校教員の採用を更に進めるため、「小学校英語教育推進特別選考」の実施と小学校一般選考における、中学校「英語」教諭普通免許状所有者及び英語資格所有者への加点措置を今後も継続し、計画的に人材の確保に取り組む。

### <高等学校>

学習指導研究会を実施し、「CAN-DO リスト」及びスピーキングテスト及びライティングテスト等、各校で実施したパフォーマンステストをそれぞれ1例ずつ提出させ、必要に応じて指導を行い、好事例を他校の教員とも共有する。併せて、観点別評価に係る研修会を実施し、観点別評価について理解を深めるとともに、各校において適切な評価を実施するよう求める。

また、県立国際高等学校（令和2年度開校）において、春期休業日を活用し、県内の中学生を対象とした英語や国際に係るイベントを実施し、中学生と高校生が交流する機会を持つ。

(3) (2) を実施する体制の概要





## (4) 年間事業計画

＜○英語指導パワーアップ講座 △講座受講者の取組 ◎その他の研修＞

月 校種	都道府県等の取組				外部専門機関
	小学校	中学校	高等学校	A L T	
6月	第1回奈良県英語教育改善連携専門部会				奈良教育大学
7月	○オリエンテーション ○評価の在り方と授業づくりについて ○学習指導要領について ○楽しさの質を高める外国語活動	○オリエンテーション ○教員の英語指導力向上に係る大学教授等による研修	○オリエンテーション △アンケート実施・目標設定シート提出		奈良教育大学
8月	○教員の英語指導力向上に係る大学教授等による研修	○教員の英語指導力向上に係る大学教授等による研修	○教員の英語指導力向上に係る民間企業等を活用した研修 ◎観点別学習状況の評価に係る研修	◎外国語指導助手の指導力等向上研修	奈良教育大学
9月	△アンケート実施・目標設定シート提出	△アンケート実施・目標設定シート提出			
10月					
11月		○外国語指導助手の指導力等向上研修 ◎中学校教科等研究会英語部会研究大会	◎学習指導研究会	◎外国語指導助手の指導力等向上研修	奈良教育大学
12月	第2回奈良県英語教育改善連携専門部会				奈良教育大学
1月	△検定試験受験	△検定試験受験	△検定試験受験		
2月	◎外国語活動研究会研究大会 △アンケート実施 △研究授業実施 △検定試験受験	△アンケート実施 △研究授業実施 △検定試験受験	△アンケート実施 △研究授業実施 △検定試験受験		
3月	第3回奈良県英語教育改善連携専門部会				奈良教育大学
	△報告書提出	△報告書提出	△報告書提出		
<b>【その他の取組】</b> 研修協力校における、大学教授等を講師とする研修会開催 研修協力校における観点別評価の研究 異校種の研修協力校間での研究授業参観 異校種の研修協力校間でのCAN-DOリストや授業映像DVDの共有 英語指導パワーアップ講座対象者以外の講座への参加奨励					

奈良県教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100		100		100	
		公表(%)	30	20	40	38.2	50		60		70	
		達成状況の把握(%)	50	45.5	60	61.8	70		80		90	
	②生徒の授業における英語による言語活		75	47.7	75	69.3	75		75		75	
	③パフォーマンステストの実施状況											
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	1.5	1.7	1.6	1.6	1.7		1.8		1.9
			コミュニケーション英語Ⅱ	1.5	1.3	1.6	1.3	1.7		1.8		1.9
			コミュニケーション英語Ⅲ	0.5	0.3	0.75	0.5	1		1.2		1.5
		英語表現Ⅰ	1	1.1	1.1	0.9	1.2		1.3		1.5	
			英語表現Ⅱ	0.5	0.8	0.75	0.4	1		1.2		1.5
			0.5	1.3	0.75	1.2	1		1.2		1.5	
	○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	0.5	1.3	0.75	1.2	1		1.2		1.5	
		コミュニケーション英語Ⅱ	1	1.2	1.1	1.6	1.2		1.3		1.5	
		コミュニケーション英語Ⅲ	0.5	0.9	0.75	1.4	1		1.2		1.5	
		英語表現Ⅰ	1	1.4	1.1	2.4	1.2		1.3		1.5	
		英語表現Ⅱ	1.5	2.3	1.6	2.7	1.7		1.8		1.9	
		1.5	2.3	1.6	2.7	1.7		1.8		1.9		
	新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									1.9
英語コミュニケーションⅡ												
英語コミュニケーションⅢ												
論理・表現Ⅰ											1.5	
		論理・表現Ⅱ										
		論理・表現Ⅲ										
○ライティングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									1.5		
	英語コミュニケーションⅡ											
	英語コミュニケーションⅢ											
論理・表現Ⅰ									1.5			
論理・表現Ⅱ												
論理・表現Ⅲ												
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)		70	47.5	70	62.9	75		75		75		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)		60	58.1	63	59.5	65		70		75		
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)		45	32.1	47	47.2	50		55		60		

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	70	56.3	90	62.1	100		100		100
		公表(%)	35	11.7	40	13.6	50		80		100
		達成状況の把握(%)	50	20.4	80	22.3	100		100		100
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	60	57.8	70	74.5	100		100		100	
		③パフォーマンステストの実施状況	3	2.27	3.1	2.87	3.2		3.3		3.4
		スピーキングテスト(回)	1.8	1.86	1.9	1.91	2		2.1		2.2
ライティングテスト(回)	1.8	1.86	1.9	1.91	2		2.1		2.2		
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)		60	43.5	70	57.2	75		80		85	
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)		40	31	45	36.7	50		50		50	
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)		42	40.4	45	42.6	48		50		50	

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)				30		50		70	
		公表(%)				10		15		20	
		達成状況の把握(%)				20		30		40	

独自No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
1	小学校と連携している中学校の割合(%)							90		100	